marantz®

Model PM-13S1 / PM-15S1 取扱説明書

Integrated Amplifier

マランツのステレオインテグレーテッドアンプをお買い上げいただき、ありがとうございます。

ご使用の前に、この取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保存してください。
なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、ご不審な箇所などありましたら、お早めにお買い上げ店、当社お客様ご相談センター、または最寄りの当社サービスセンターにお問い合わせください。

目次

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる場所に保証書と共に必ず保管してください。

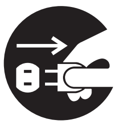
絵表示について

この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ **警告**	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。



△記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

安全上のご注意

警告

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。
- 万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 万一、機器の内部に異物が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 製品に同梱している電源コードのみ使用してください。製品に同梱していない電源コードを使用しないでください。

- この機器を設置する場合は、壁から 20cm 以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れる時は、機器の天面から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

電源プラグをコンセントから抜く

- 万一、この機器を落したり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

- 風呂場等の水滴がかかる場所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

- 乾電池は、充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。

- 表示された電源電圧 (交流 100 ボルト) 以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流 (DC) 電源には接続しないでください。火災の原因となります。

- この機器の開口部をふさがないでください。開口部をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに開口部があけてあります。次のような使い方はしないでください。
  - ーこの機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。
  - ーこの機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
  - ーテーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。
- この機器の上にろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因になります。
- この機器の開口部などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

安全上のご注意

警　告

接触禁止

- 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

- この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

分解禁止

- この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

注　意

- オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱しやけどの原因となることがあります。
- 電源を入れる前には、音量 (ボリューム) を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。また、テレビ等の音声を本機のスピーカーを使ってお楽しみになる前にも、音量 (ボリューム) を最小にしてください。

- 電池をリモコン内に挿入する場合、極性表示プラス ⊕ とマイナス ⊖ の向きに注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- ご不要になった電池を廃棄する場合は、各地の地方自治団体の指示 (条例) に従って処理してください。

電源プラグをコンセントから抜く

- 電源のスイッチを切っても電源からは完全に遮断されていません。万一の事故防止のため、本製品を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。
- 旅行などで長期間、この機器をご使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

- 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

- 電池は、金属性のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアーピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池のプラス + 端子とマイナス - 端子の間がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。
- 電池は､加熱したり､分解したり､火や水の中に入れないでください。電池の破裂､液もれにより､火災、けがの原因となることがあります。

安全上のご注意

注　意

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

- この機器の上に物を置かないでください。この機器の上には通気孔があります。通気孔をふさぐと中に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- この機器の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。
- この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわしたりして、けがの原因となることがあります。

- 5 年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。
- 長期間使用しない時は、電池をリモコンから取り出しておいてください。電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一、もれた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

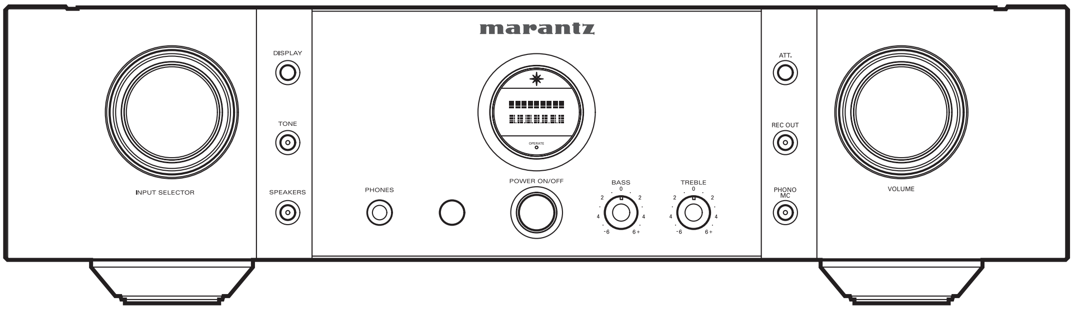
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

高温注意

- 使用中および使用直後は、操作部、後面接続端子部以外は高温になっているので手を触れないでください。やけどの恐れがあり、危険です。特に上面など高温部には触れないでください。

AMP_070129F1

主な特長



本機はマランツのフラグシップ プリメインアンプ PM-11S1 のデザインコンセプトを正当に受け継ぐモデルです。

アンプ部

● HDAM®SA2

PM-11S1 と同様に HDAM®SA2 は本機の要となるアンプモジュールです。HDAM®SA2 は入力バッファー、リニアコントロールボリューム、パワーバッファーに搭載しています。

● リニアコントロールボリューム

ボリュームコントロールには、PM-11S1 を継承したリニアコントロールボリュームを採用しました。リニアコントロールボリュームは 0dB 〜ー 100dB の範囲を± 0.5dB ステップでスムーズにコントロールすることができます。

● 電流帰還型 PHONO イコライザー

MM/MC 型カートリッジ対応のフォノイコライザーには、PM-11S1 を継承した電流帰還型の PHONO イコライザーを搭載しました。

● 入力バッファー

入力部には HDAM®SA2 で構成された入力バッファーを搭載しました。この入力バッファーは入力ソースからの信号を忠実にリニアコントロールボリュームに伝送します。

● パワーアンプ部

PM-11S1 のデザインコンセプトを踏襲しボルテージアンプとパワーバッファーによる 2 アンプ構成としました。2 アンプ構成とすることでパワーバッファーが強力にスピーカーをドライブし、スピーカーからの逆起電力の影響を遮断します。

電源

● 電源トランス

電源トランス特有の振動と漏洩磁束の少ない新開発のトロイダル型電源トランスを搭載しました。リング状コアの材料と製造工程を厳しく管理することで振動を軽減し、トランスの外周にコアリングを巻くことで漏洩磁束を軽減しています。
さらに PM-13S1 では、アルミ製ケースに樹脂封入することにより、微細な振動・うなり・漏洩磁束をより低減しました。

● LC リップルフィルター

プリアンプ用の電源回路には LC リップルフィルターを搭載しました。この LC リップルフィルターは整流回路で発生する整流ノイズ及び外部からの高周波ノイズを遮断しクリーンな電源をプリアンプ部に供給します。

● 大容量ブロックコンデンサ

メインアンプ用の電源回路には音質検討を重ねた大容量コンデンサを搭載し、プリアンプ用の電源回路にはオーディオ用コンデンサを搭載しています。

機能

● BI.AMP モード

マランツが提唱したコンプリートバイアンプ接続は PM-11S1 でこれまでにない音場空間を再現しました。そのコンプリートバイアンプを本機でも可能にしました。2 台の本機をそれぞれモノラル·インテグレーテッドアンプとして働くバイアンプモードとし F.C.B.S. で連動動作します。

● F.C.B.S.

フローティング・コントロール・バス・システムは最大 4 台相互に接続して連動動作させる機能で、コンプリートバイアンプやマルチチャンネルなど多彩な用途で使用することができます。また、接続した複数の機器間でアースループが生じないため音質への悪影響がありません。

● ディスプレイ

入力ソース及び音量を表示するディスプレイに LCD(液晶表示板) を採用しました。他の方式の表示板に比べ駆動電力が少なく輻射ノイズが小さいため音質への影響が極めて小さくなっています。

● 高音質コンデンサ

マランツカスタム品のポリフェニレンサルファイドコンデンサ「ブルースターキャップ」を採用し、音質向上に大きく貢献しています（PM-13S1 のみ）。また、更なる音質向上のため、オーディオ用フィルムコンデンサ、電解コンデンサを使用しています。

● 銅メッキシャーシ（PM-13S1 のみ）

● アルミ製 5mm 厚トップカバー（PM-13S1 のみ）

● アルミダイキャスト製インシュレータ

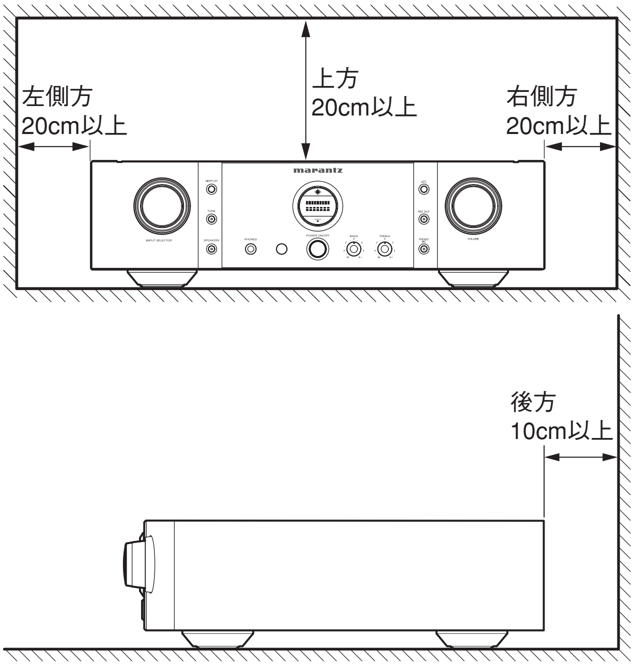
ご使用の前に

■ 次のような場所には置かない

本機を末永くご使用いただくために、次のような場所には置かないでください。

- ● 直射日光が当たる所
- ● 暖房器具など熱を発生する機器に近い所
- ● 湿気の多い所や風通しの悪い所
- ● ほこりの多い所
- ● 振動のある所
- ● ぐらついた台の上や傾斜のある不安定な所
- ● 天地の狭いオーディオラックなど放熱を妨げる所

  放熱のため、本機を下図の通りに壁や他の機器等から離して設置してください。



■ 上に物をのせない

本機の上に物をのせないでください。通風孔をふさぐと事故や故障の原因になります。

■ 使用中・使用直後に上面などの高温部には触れない

使用中と使用直後は、操作部、後面接続端子部以外は高温になっているので手を触れないでください。やけどのおそれがあり危険です。特に上面などの高温部には触れないでください。

■ ご使用いただく電源電圧・周波数

- ● 電源電圧は、交流 100V をご使用ください。
- ● 電源周波数は、50Hz 地域または 60Hz 地域でご使用できます。

■ 乾電池の取扱いかた

乾電池を誤って使用すると、液もれや破裂、腐食などの原因となることがあります。
以下の注意をよく読んでご使用ください。

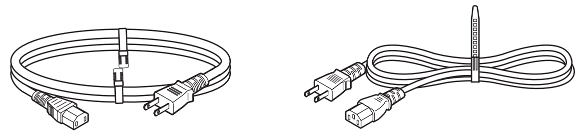
- ● 長期間（1 ヶ月以上）リモコンを使用しない時は、電池を取り出しておいてください。
- ● 古い乾電池と新しい乾電池を一緒に使用しないでください。
- ● 乾電池のプラス＋とマイナス－の向きを機器の表示通り正しく入れてください。
- ● 乾電池は同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ● 液もれを起こした時は、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
- ● 不要になった電池を廃棄する場合は、お住まいの地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

■ 付属品の確認

ご使用の前に下記の付属品が揃っていることをご確認ください。

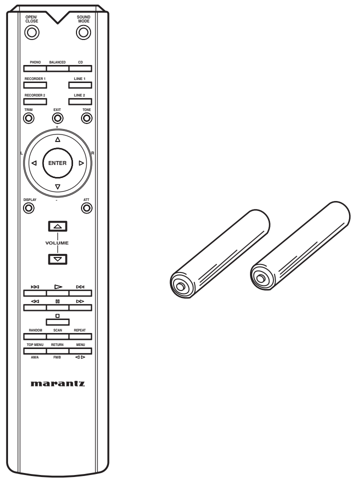
- ● 電源コード

（PM-13S1）　（PM-15S1）



製品に同梱している電源コードは、同梱されている製品のみ使用できます。同梱している製品以外には、この電源コードを使用することができません。

- ● リモコン
- ● 単 4 乾電池（2 本）



- ● 保証書
- ● 愛用者カード
- ● 取扱説明書（本書）

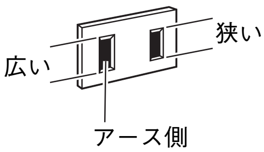
接続の前に

電源コードの極性

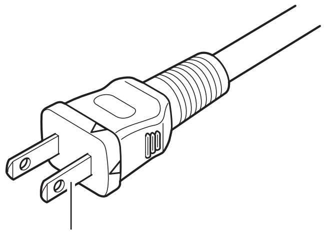
家庭用の交流電源には極性があり、本機は電源の極性を合わせることで最良の音質が得られるよう設計されています。図のように家庭用の電源コンセントは穴の幅の違いで極性が表示され、本機に付属の電源コードは「► マーク」または「白い線」で極性が表示されています。
電源の極性を合わせて本機をお使いいただく場合は、電源コードの「► マーク」または「白い線」で表示されている側を電源コンセントの幅が広い側に合わせて接続してください。
しかし、ご家庭の環境によっては電源コンセントに極性表示が無い場合や、逆に接続した方が好ましい場合があります。そのような場合は実際に音質をご確認のうえ最適な極性にすることをおすすめします。

ご注意

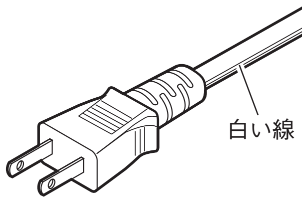
電源コードを接続する際には必ず本機の電源スイッチを OFF にしてください。



● PM-13S1 付属コード



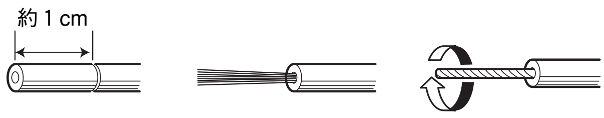
● PM-15S1 付属コード



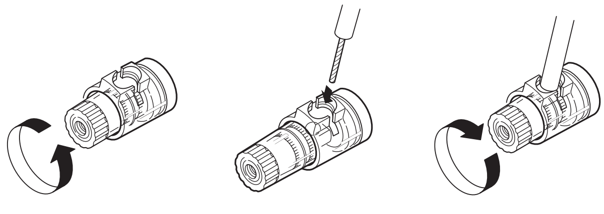
スピーカーコードの接続について

● スピーカーコードを接続する際は、ショートしないよう十分注意してください。

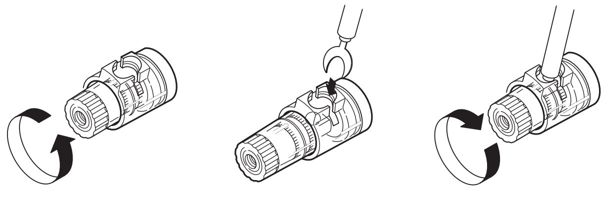
● スピーカーコードの被ふくは下図のように剥いでください。



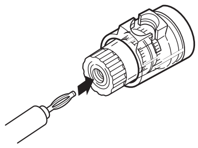
● スピーカーコードとの接続



● Y 型端子（ラグ）との接続



● バナナプラグとの接続



お使いになるスピーカーシステムは以下の条件を満たしていることが必要です。以下の条件を満たしていない場合には、アンプの保護回路が動作し正しく再生できません。場合によってはアンプやスピーカーシステムが故障する恐れもあります。

● 1 組のスピーカーシステムのみお使いになる時は、インピーダンスが 4 Ω以上のスピーカーシステムをお使いください。

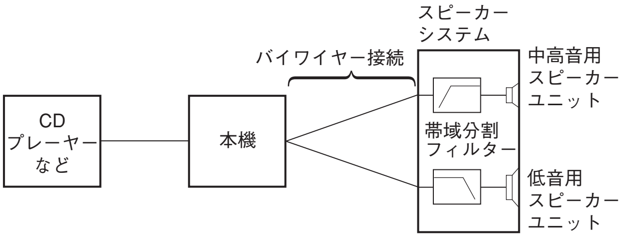
● 2 組のスピーカーシステムを同時にお使いになる時は、インピーダンスが 8 Ω以上のスピーカーシステムをお使いください。

接続の前に

音質を向上させる２つの接続方法を簡単に説明します。
この説明で使用する接続方法は、スピーカーシステムがバイアンプ接続に対応し低音用と中高音用の入力端子を持っているものとします。お使いになるスピーカーシステムがバイアンプ接続対応かどうかは取扱説明書でご確認いただくか製造メーカーにお問い合わせください。

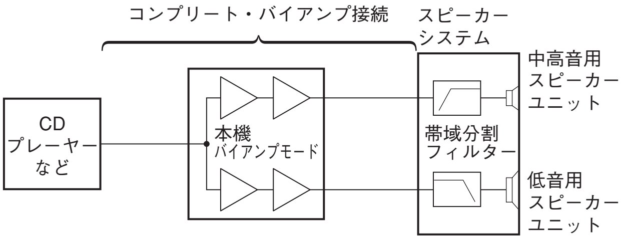
バイワイヤー接続

バイワイヤー接続はスピーカーの低音用入力端子および中高音用入力端子を別々のスピーカーコードでアンプに接続する方法です。低音用と高音用のケーブルを分けることで、低音用スピーカーユニットで発生する逆起電力による中高音用スピーカーユニットへの干渉を少なくすることができます。
接続例１（9 ページ）の本機とスピーカーはバイワイヤー接続されていますのでこちらも参照してください。



コンプリートバイアンプ接続

バイワイヤー接続を更に発展させた接続方法です。このコンプリートバイアンプはマランツが提案しました。
コンプリートバイアンプはプリアンプ部から低音用と中高音用のアンプを分離独立していますので、低音と中高音間の干渉を極限まで減らすことができます。その結果、広大な音場空間再現を可能にします。
接続例３（11 ページ）は２台の本機を F.C.B.S. で連動させたコンプリートバイアンプ接続ですのでこちらも参照してください。



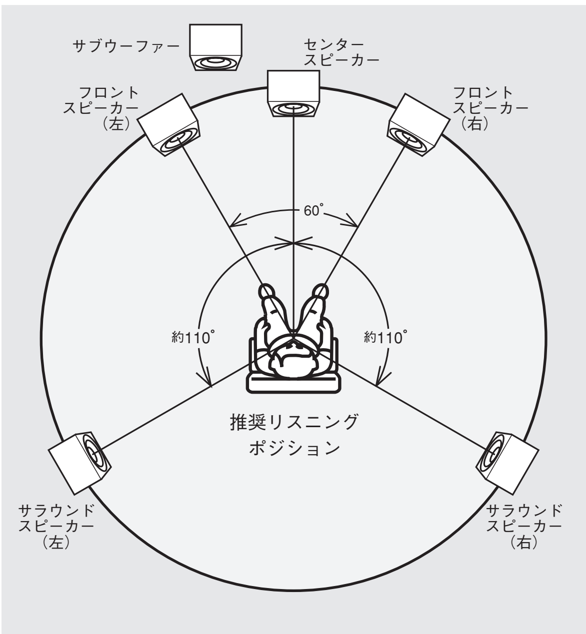
スーパーオーディオ CD マルチチャンネルオーディオのスピーカー設置

スーパーオーディオ CD マルチチャンネルを最良な音場でお楽しみいただくには、ITU（国際電気通信連合）が定めた規格である「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置をお勧めします。スーパーオーディオ CD マルチチャンネルディスクは「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置の時に最良となるようにレコーディングやミキシングがされています。

- スーパーオーディオ CD マルチチャンネルのディスクに記録されている音声信号は５チャンネル（3 〜 6 も可能）が基本で､6 チャンネル目として LFE（サブウーファー用）が記録されていることもあります。
  記録されているチャンネル数はディスクに表示してあります。
- スピーカーシステムの数は、フロント側３本、サラウンド（リア）側２本、の同タイプ５本が基本です。
  下図のように、フロント（左右）、センター、サラウンド（左右）の各スピーカーシステムはリスニングポジションを中心とする円周上に配置します。
  スピーカーシステムの大きさが異なる時は、アンプ側で各チャンネルの音量を調整してください。
- 図中のサブウーファーの配置は説明のため、仮に配置したものです。サブウーファーはお部屋の環境に合わせて配置してください。サブウーファーの接続や設定方法は、その取扱説明書をお読みください。

■ ITU（国際電気通信連合）

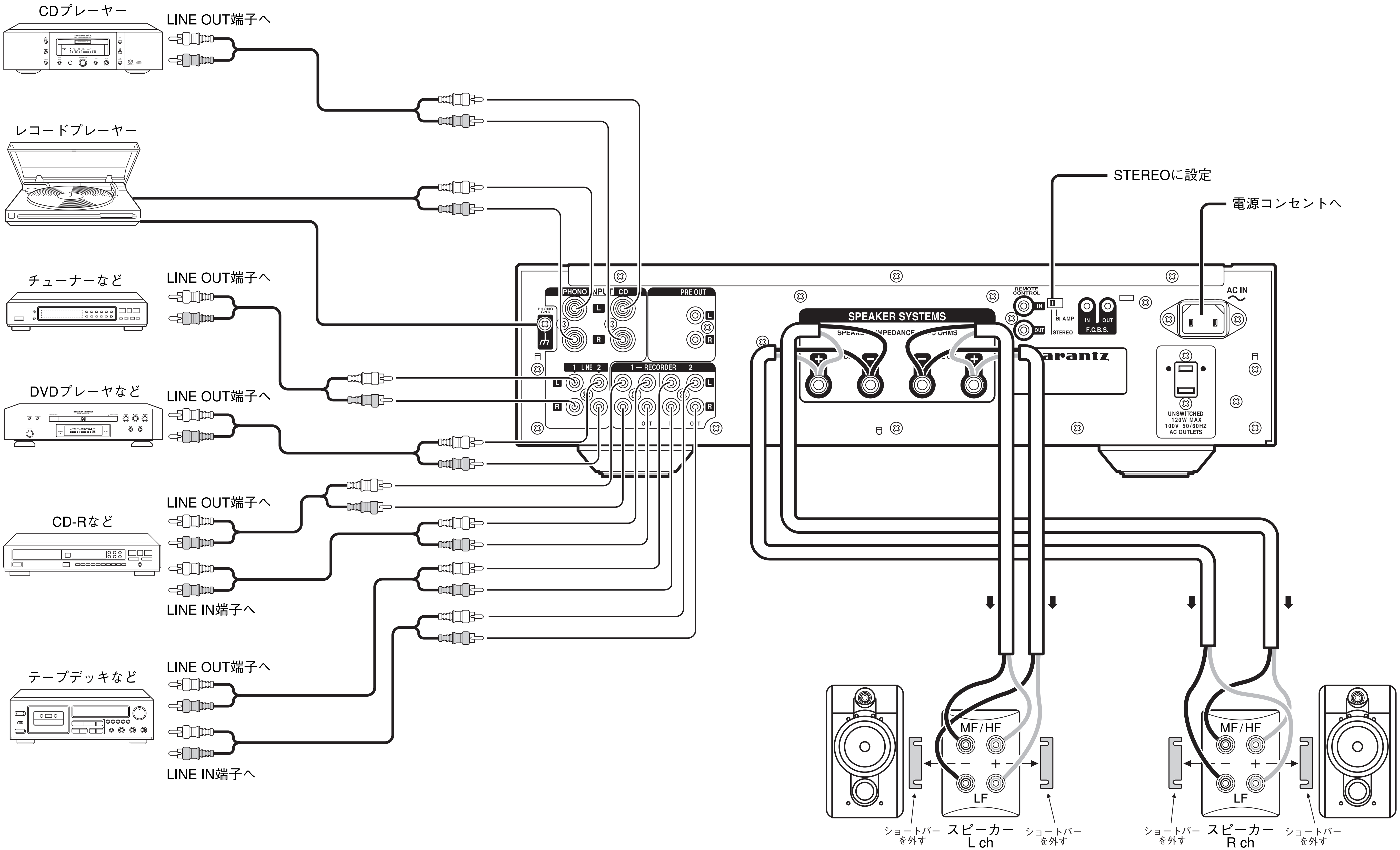
ITU は「International Telecommunication Union（国際電気通信連合）」の略で、国際連合（UN）の専門機関の一つです。ITU-R はその連合を構成する一つの部門で、「無線通信部門」です。
また勧告書の ITU-R BS は“放送業務（音声）”に関する規格で、ITU-R BS.775-1 はその中で「マルチチャンネル立体音響システム」について定められた規格です。



■接続例 1：通常のステレオ再生をするための基本的な接続

接続する機器の取扱説明書も参照して正しく接続してください。

- スピーカーシステムとの接続はバイワイヤー接続（8 ページ）になっています。
- 前面の SPEAKER ボタンを ON に設定してください。
- 録音をする場合は前面の REC OUT ボタンを ON に設定してください。



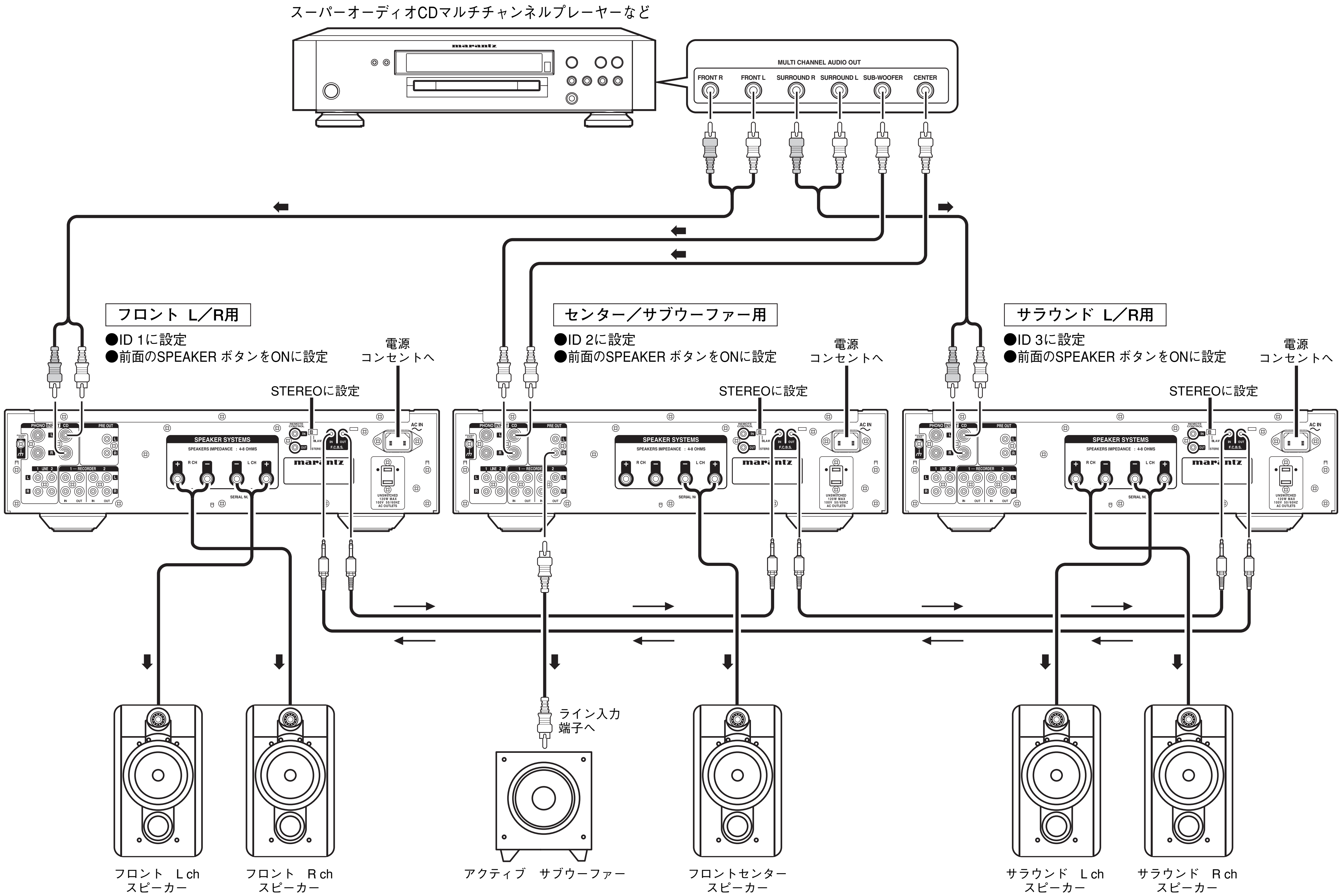
■ 接続例 2：本機を 3 台使用した 5.1ch マルチチャンネル再生をする基本的な接続

① 3 台を F.C.B.S. 接続し連動動作して使用します。F.C.B.S. について（20 ページ）を参照しポータブルオーディオ用として市販されているモノラルミニプラグ ⇔ モノラルミニプラグまたはステレオミニプラグ ⇔ ステレオミニプラグの接続コードを 3 本ご用意ください。

② それぞれの ID 番号は ID 番号の設定のしかた（23 ページ）を参照して設定してください。ID 1 のアンプを操作することにより ID 2 と ID 3 のアンプが連動して動作するようになります。

③ アクティブサブウーファーを使用する場合は、アクティブサブウーファーの取扱説明書を参照してください。

④ 5.1 チャンネルアナログ出力を持つプレーヤーの出力をそれぞれ 3 台のアンプに接続します。



■接続例 3：本機を 2 台使用したステレオコンプリートバイアンプ接続

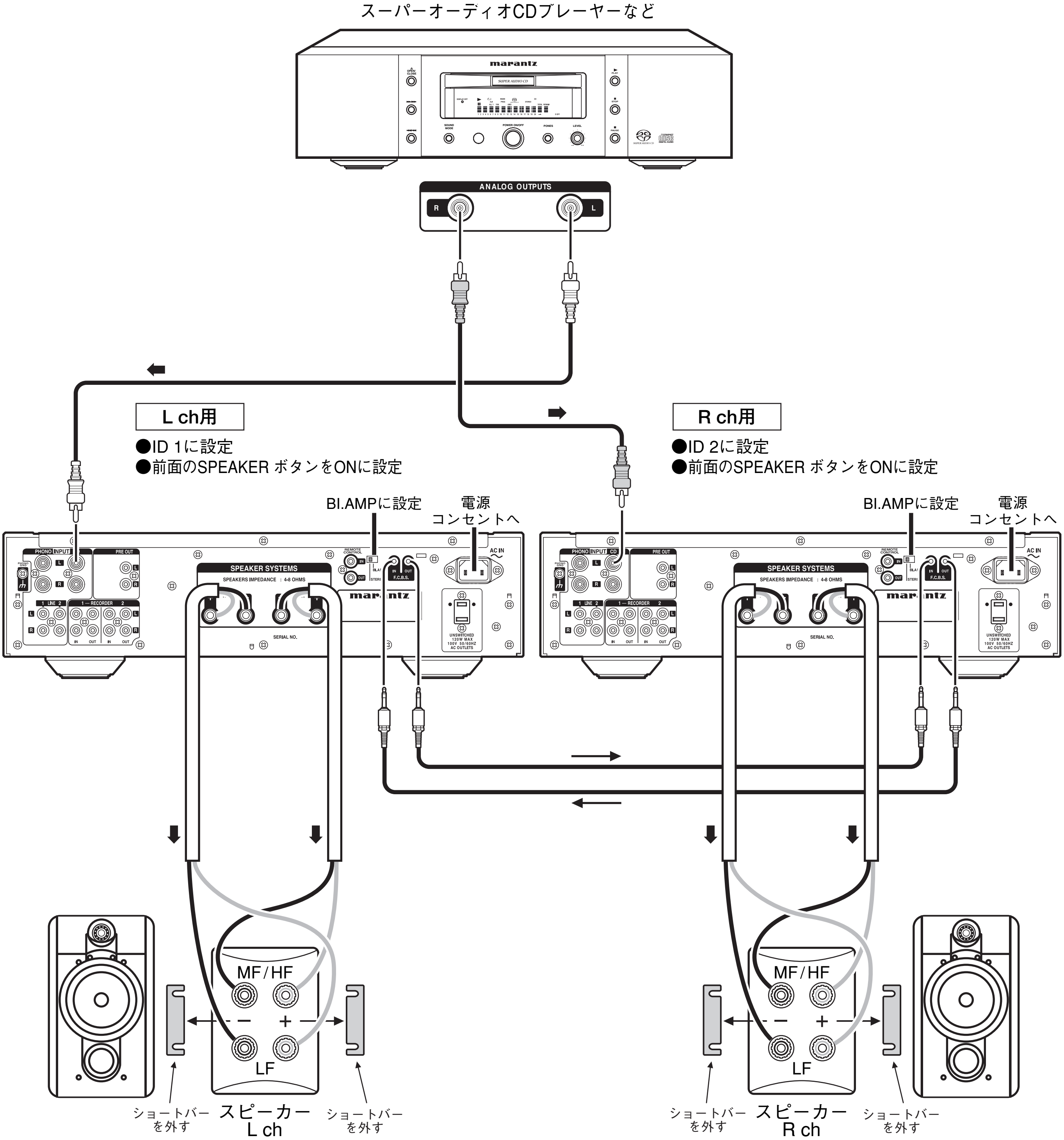
スピーカーシステムはバイアンプ接続に対応している必要がありますので、スピーカーシステムの取扱説明書で確認していただくか、製造メーカーにお問い合わせください。

① 2 台を F.C.B.S. 接続し連動動作して使用します。**F.C.B.S. について**（20 ページ）を参照しポータブルオーディオ用で市販されているモノラルミニプラグ ⇔ モノラルミニプラグまたはステレオミニプラグ ⇔ ステレオミニプラグの接続コードを 2 本ご用意ください。

② それぞれの ID 番号は **ID 番号の設定のしかた**（23 ページ）を参照して設定してください。ID 1 のアンプを操作することにより ID 2 のアンプが連動して動作するようになります。

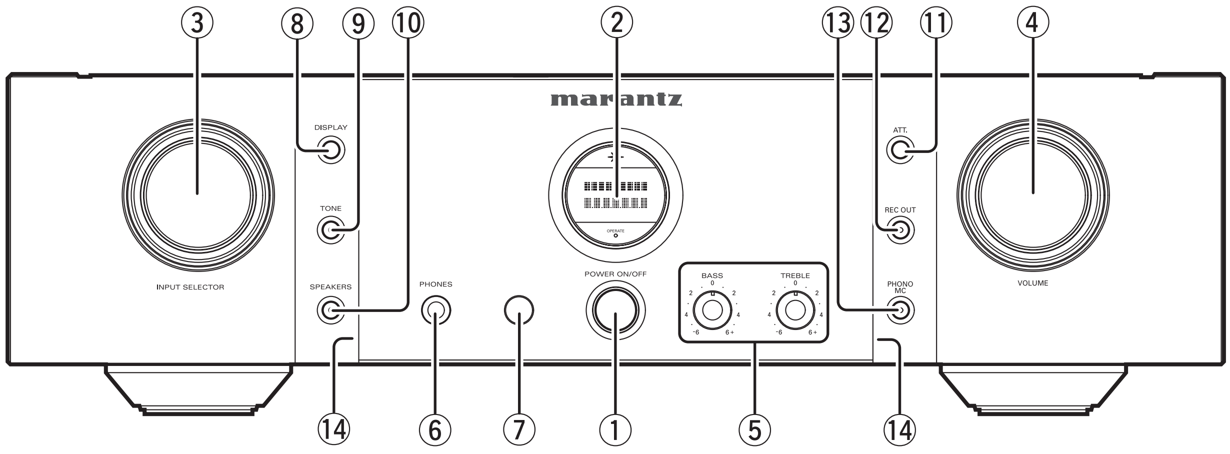
③ CD プレーヤーなどのアナログ出力を 2 台のアンプに接続します。

注意：R チャンネルの各入力端子は使用しません。



各部の名称とはたらき

前面



① POWER ON/OFF スイッチ

電源を ON/OFF するスイッチです。スイッチを押すと電源が ON しディスプレイ ② 内の青いインジケーターが点灯します。電源を ON してから約 8 秒後に音が出る状態になります。もう一度スイッチを押すと電源が OFF します。

② ディスプレイ

選択した入力ソース名や音量および設定状況を表示します。

③ INPUT SELECTOR つまみ

再生 / 録音する入力ソースを選択するつまみです。
選択した入力ソースはディスプレイ ② に表示されます。

④ VOLUME つまみ

音量を調整するつまみです。音量はディスプレイ ② に表示されます。つまみを時計回りに回すと音量が大きくなり、反時計回りに回すと音量が小さくなります。つまみをゆっくり回すと 0.5dB ステップで微調整することができ、つまみを早く回すと変化量が大きくなります。

⑤ トーンコントロールつまみ（BASS、TREBLE）

低音 (BASS) と高音 (TREBLE) の音質を調整するつまみです。低音と高音はそれぞれのつまみを時計方向に回すと強められ、反時計方向に回すと弱められます。

TONE ボタン ⑨ が OFF の状態では音質を調整できませんので ON に設定してお使いください。

⑥ PHONES ジャック

ステレオ標準プラグのヘッドホンを接続するジャックです。ヘッドホンのみをご使用になる時は SPEAKERS ボタン ⑩ を OFF にしてスピーカー出力を切ってお使いください。

⑦ 赤外線受光窓

付属のリモコンから送られるコントロール信号を受光する窓です。リモコンをこの窓に向けて正しく信号を送信してください。

⑧ DISPLAY ボタン

ディスプレイおよびイルミネーションランプを点灯 / 消灯させるボタンです。
ディスプレイ消灯時にボリュームつまみなどを操作するとディスプレイが再点灯し操作を終了してから約 3 秒後自動的に消灯します。

⑨ TONE ボタン

BASS(低音)/TREBLE(高音) のトーンコントロールを ON/OFF するボタンです。トーンコントロールを ON にするとボタンの中央が青く点灯します。

⑩ SPEAKERS ボタン

後面パネルの SPEAKER SYSTEMS 端子に接続されているスピーカーの出力を ON/OFF するボタンです。スピーカー出力を ON するとボタンの中央が青く点灯します。ヘッドホンをお使いになる時はスピーカー出力を OFF にしてください。

⑪ ATT. ボタン

音量をワンタッチで減衰させるボタンです。ボタンを押すとディスプレイに “ATT” と点滅表示し音量が減衰します。もう一度ボタンを押すと解除し元の音量に戻ります。製品出荷時は－ 20dB の減衰量に設定されていますが－ 40dB と－∞に設定することも可能です。
減衰量の設定のしかた (21 ページ) を参照してください。

⑫ REC OUT ボタン

後面パネルの RECORDER 1 と RECORDER 2 の各 OUT 端子に出力する信号を ON/OFF するボタンです。出力を ON にするとボタンの中央が青く点灯します。
録音のしかた (19 ページ) を参照してください。

入力ソースに RECORDER 1 が選択されていると RECORDER 1 の OUT 端子に信号は出力されません。また、入力ソースに RECORDER 2 が選択されていると RECORDER 2 の OUT 端子に信号は出力されません。

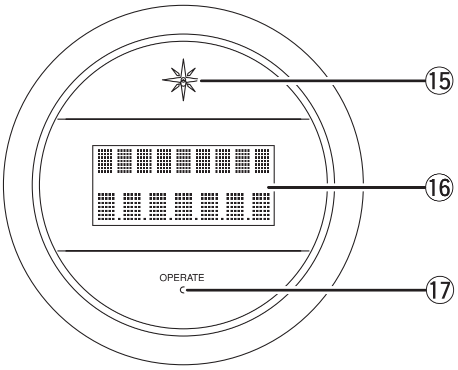
⑬ PHONO MC ボタン

フォノイコライザーアンプの設定を MC または MM に切替えるスイッチです。MC に設定するとスイッチの中央が青く点灯します。
お使いになるカートリッジのタイプに合わせて正しく設定してください。

⑭ イルミネーションランプ

スイッチボタン部を青い光で照らします。DISPLAY ボタンで点灯 / 消灯することができます。
イルミネーションランプの設定のしかた (21 ページ) を参照してください。

ディスプレイ部

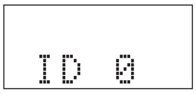


⑮ 電源インジケーター

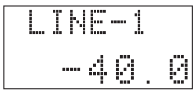
電源が ON している時に青く点灯します。

⑯ ディスプレイパネル

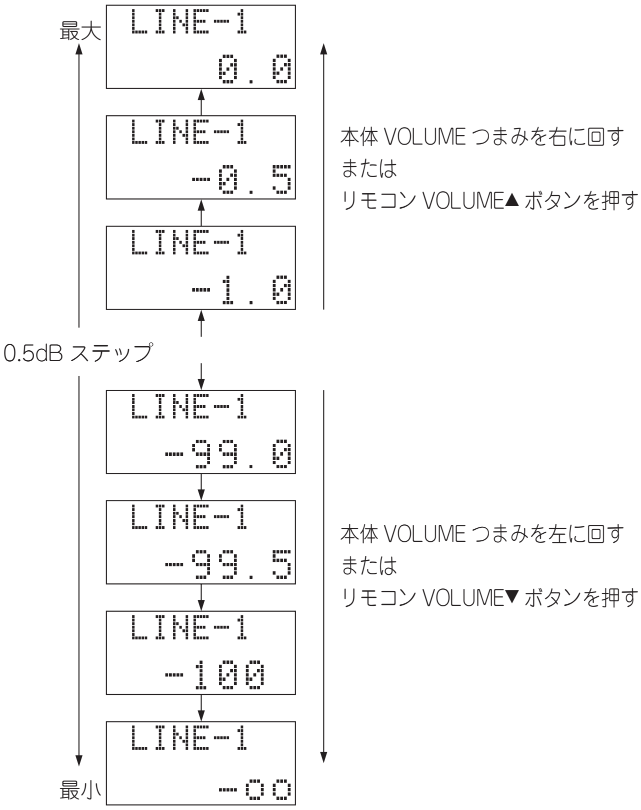
電源 ON すると約 3 秒間は設定された ID 番号を表示します。



その後、入力ソース名が表示され、下段には音量を表示します。音量は減衰量 (単位 dB) で表示されます。



VOLUME インジケーター音量表示

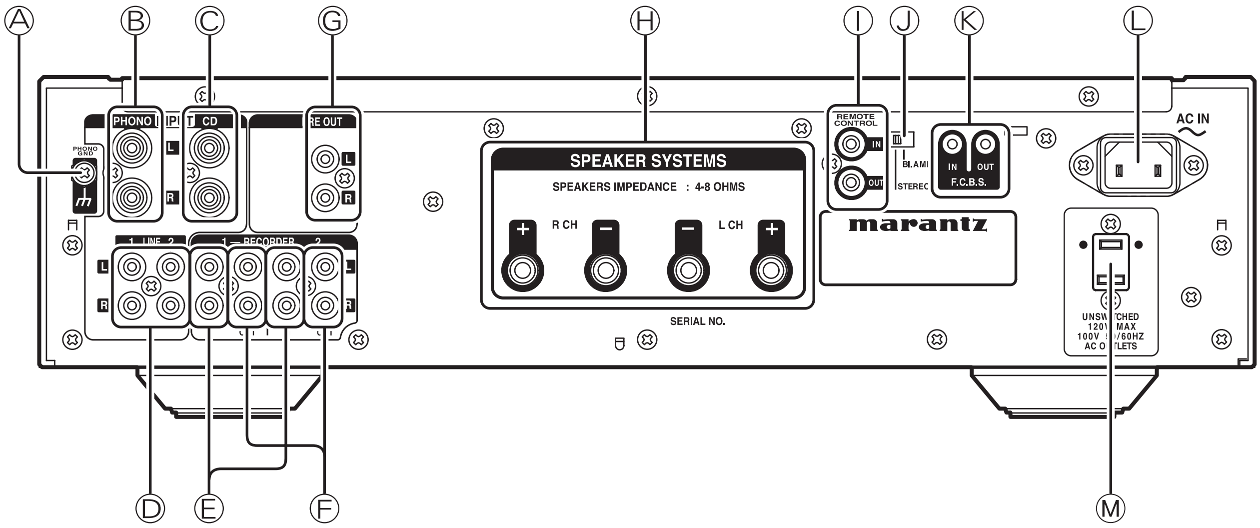


また、左右のレベルバランス調整時は設定値を表示します。
LEVEL TRIM 調整のしかた (22 ページ) を参照してください。
その他、動作に応じ各種メッセージが表示されます。

⑰ OPERATE インジケーター

本機の動作状況を表示するインジケーターです。
ID 番号が “0” の単体動作時は赤く点灯します。また、F.C.B.S. で複数台を接続した場合、ID 番号が “1” のマスターのみ赤く点灯します。このインジケーターが赤く点灯していないスレーブのアンプでは、連動する機能を操作することはできません。
F.C.B.S. について (20 ページ) を参照してください。

背面



Ⓐ PHONO GND 端子

レコードプレーヤーからのアース線を接続してください。

Ⓑ PHONO 入力端子

アナログレコードプレーヤーに接続する端子です。
MC および MM カートリッジが使用できますのでご使用になるカートリッジに合わせて前面パネルの PHONO MC ボタンで設定してください。
BI.AMP モードでは R チャンネルの端子は使用できません。

Ⓒ CD 入力端子

スーパーオーディオ CD プレーヤーや CD プレーヤーなどの出力端子に接続する端子です。
BI.AMP モードでは R チャンネルの端子は使用できません。

Ⓓ LINE 1/LINE 2 入力端子

チューナーや DVD プレーヤーなどの出力端子に接続する端子です。
BI.AMP モードでは R チャンネルの端子は使用できません。

Ⓔ RECORDER 1/RECORDER 2 入力端子

CD-R、MD デッキ、テープデッキなどの出力端子に接続する端子です。
BI.AMP モードでは R チャンネルの端子は使用できません。

Ⓕ RECORDER 1/RECORDER 2 出力端子

CD-R、MD デッキ、テープデッキなどの録音入力端子と接続する端子です。前面パネルの REC OUT ボタンで出力信号を ON/OFF することができます。

Ⓖ PRE OUT 端子

他のメインアンプやアクティブサブウーファーの入力端子に接続する端子です。
BI.AMP モードでは L チャンネルに入力された信号が両方の出力端子に出力されます。

Ⓗ SPEAKER SYSTEMS 出力端子

スピーカーシステムを接続する端子です。前面パネルの SPEAKERS ボタンでスピーカー出力を ON/OFF することができます。
BI.AMP モードでは L チャンネルに入力された信号が両方の出力端子に出力されます。

Ⓘ REMOTE CONTROL 端子

マランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD プレーヤーなどリモートコントロール (D.BUS 端子) を持つ機器と接続する端子で、付属のリモコンを使ってシステムコントロールすることができます。
リモートコントロール端子 (24 ページ) を参照してください。

Ⓙ MODE スイッチ

本機の動作モードを設定するスイッチです。
STEREO： 通常の 2 チャンネルステレオアンプとして使用する時に設定します。
BI.AMP： 本機を 2 台 F.C.B.S. で連動させたコンプリートバイアンプで使用する時などに設定します。
BI.AMP モードについて（20 ページ）を参照してください。

Ⓚ F.C.B.S. IN/OUT 端子

コンプリートバイアンプやマルチチャンネルなど最大 4 台までの本機を接続して連動動作することができます。市販されているステレオミニプラグまたはモノラルミニプラグの接続コードが使用できます。使い方および接続方法は **F.C.B.S. について** (20 ページ) を参照してください。

Ⓛ AC INLET

付属の電源コードで電源コンセントに接続してください。使用できる電源電圧は AC100V で 50Hz の地域および 60Hz の地域で使用できます。

Ⓜ AC OUTLET

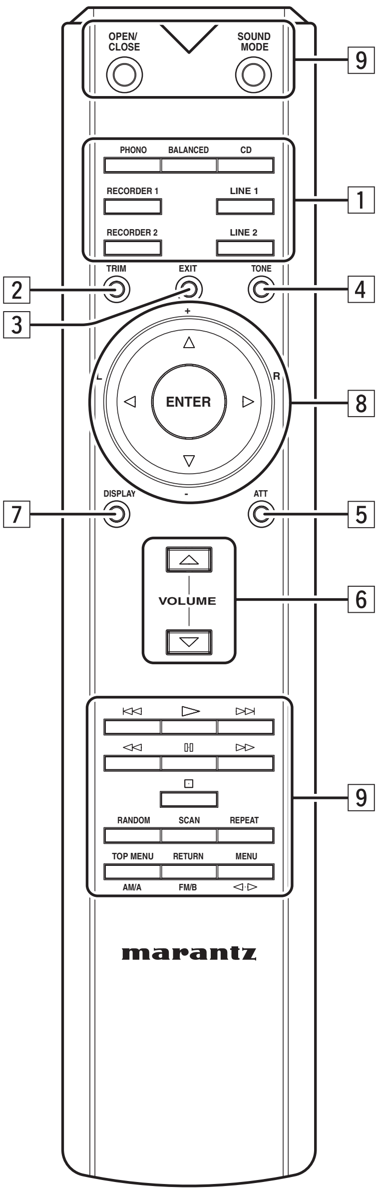
他のコンポーネントの電源プラグを接続することができます。この電源コンセントは本機の電源スイッチとは連動しません。

接続できるコンポーネントの電力容量は 120W 以下です。120W を超える機器を接続すると内部のヒューズが切断し使用できなくなりますのでご注意ください。

リモコン

このリモコンは本機とリモコン受光窓の付いているマランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD プレーヤーをコントロールすることができます。リモコン操作によりコントロールできる内容が異なる場合もありますので、組み合わせる機器の取扱説明書も参照してください。

リモコンのボタンレイアウトは下図を参照してください。



1 INPUT SELECT のボタングループ

再生する入力ソースを選択するボタンのグループです。本機は BALANCED 入力に対応していませんので、BALANCED ボタンを押しても機能しません。

2 TRIM ボタン

各トリム調整を開始するボタンです。(22 ページ)
F.C.B.S. で複数台を連動動作している場合はトリム調整するアンプを選択します。

3 EXIT ボタン

各トリム調整が完了し、トリムモードを終了するボタンです。

4 TONE ボタン

トーン (BASS/TREBLE) コントロールを ON/OFF するボタンです。

5 ATT. ボタン

音量をワンタッチで絞るアッテネーターボタンです。
(21 ページ)

6 VOLUME ボタン

▲：音量を大きくするボタンです。
▼：音量を小さくするボタンです。

7 DISPLAY ボタン

ディスプレイを点灯 / 消灯するボタンです。

8 カーソルボタンのグループ

トリム調整モードの時

調整するチャンネルを選択およびレベルを調整するボタンとして使用します。
ENTER：使用しません。
▶ / R ：Rch のトリム調整を選択するボタンです。
◀ / L ：Lch のトリム調整を選択するボタンです。
▲ / ＋：トリム調整レベルを大きくするボタンです。
▼ / ー：トリム調整レベルを小さくするボタンです。

トリム調整モード以外の時

▶ / ◀ / ▲ / ▼ / ENTER：マランツ製 DVD プレーヤーなどメニュー画面での設定項目を選択するボタンです。
対応するマランツ製品の操作については次ページの表および組み合わせるマランツ製品の取扱説明書を参照してください。

9 プレーヤーなどを操作するボタングループ

マランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD プレーヤーなどを操作するボタンのグループです。
対応するマランツ製品の操作については次ページの表および組み合わせるマランツ製品の取扱説明書を参照してください。

[8] と [9] はマランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD プレーヤーなど本機以外のマランツ製品の基本的な操作をするボタングループです。[1] の INPUT SELECT ボタンで選択した入力ソースにより、ボタンの機能はそれぞれの機器に対応した機能に変わります。

CD のボタンを押した時、[8] と [9] のボタングループは下表のように機能します。CD 入力端子にマランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーを接続しておくと操作することができます。

ボタンの名称	機　能
OPEN/CLOSE	ディスクトレイのオープン / クローズ
SOUND MODE	スーパーオーディオ CD のサウンドモード選択 スーパーオーディオ CD/CD の選択
▶	プレイ（再生）
I◀◀	トラックスキップ（曲の始め / 前の曲へ戻る）
▶▶I	トラックスキップ（次の曲へ進む）
◀◀	早戻しサーチ
▶▶	早送りサーチ
II	ポーズ（一時停止）
■	ストップ（停止）
RANDOM	ランダム再生
SCAN	AMS 再生
REPEAT	リピート再生
TOP MENU/AM/A	使用できません
RETURN/FM/B	使用できません
MENU ◀▶	クイックリプレイの設定
ENTER	クイックリプレイ開始
▲ / ＋	使用できません
▼ / −	使用できません
◀ / L	使用できません
▶ / R	使用できません

LINE 2 のボタンを押した時、[8] と [9] のボタングループは下記のように機能します。LINE 2 入力端子にマランツ製 DVD プレーヤーを接続しておくと操作することができます。

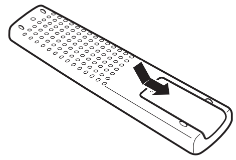
ボタンの名称	機　能
OPEN/CLOSE	ディスクトレイのオープン / クローズ
SOUND MODE	音声切換え
▶	プレイ（再生）
I◀◀	トラックスキップ（曲の始め / 前の曲へ戻る）
▶▶I	トラックスキップ（次の曲へ進む）
◀◀	早戻しサーチ
▶▶	早送りサーチ
II	ポーズ（一時停止）
■	ストップ（停止）
RANDOM	ランダム再生
SCAN	サーチの種類を選択
REPEAT	リピート再生
TOP MENU/AM/A	最初のメニュー画面を表示
RETURN/FM/B	前のメニュー画面に戻る
MENU ◀▶	メニュー画面を表示
ENTER	選択した項目を決定
▲ / ＋	カーソルを上に移動
▼ / −	カーソルを下に移動
◀ / L	カーソルを左に移動
▶ / R	カーソルを右に移動

■ リモコンの使用について

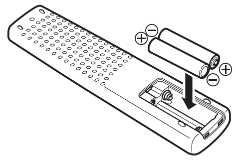
● リモコンに乾電池を入れる

付属のリモコンを最初にご使用になる前に、リモコンに乾電池を入れてください。
付属の乾電池はリモコンの動作確認用です。

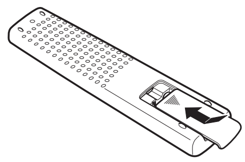
① 裏面フタの凹んでいる部分を押しながら、矢印の方向へ開きます。



② 新しい単 4 乾電池 2 本を、極性表示（＋ : プラスと－ : マイナスの向き）に注意し、表示通りに正しく入れます。

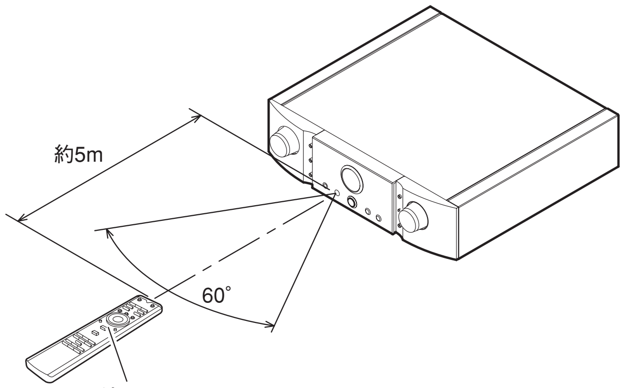


③ 電池フタを矢印の方向へ押して閉めます。



● リモコンの動作範囲

リモコンによる本体の操作可能範囲は下図のように約 5 mの距離です。



● 使用上の注意

・ リモコンの受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。リモコンが操作できない場合があります。
・ リモコンを操作すると、赤外線で操作する他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。
・ リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると操作できません。
・ リモコンの上に物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

基本的な使い方

再生のしかた

代表的な例としてスーパーオーディオ CD プレーヤーでディスク再生およびアナログレコードプレーヤーでレコード再生をする手順を説明します。
接続方法を参照し機器が正しく本機に接続されていることを確認してください。

■ スーパーオーディオ CD プレーヤーによるディスク再生

1 スーパーオーディオ CD プレーヤーの POWER ON/OFF スイッチを押して電源を投入します。

2 続いて本機の POWER ON/OFF スイッチ ① を押して電源を投入します。電源を投入し約 8 秒後にミューティングが解除し音が出る状態になります。複数台を F.C.B.S. 接続して連動動作させる場合は、ID 番号の若い機器から順番に電源を投入してください。

3 本体の INPUT SELECTOR つまみ ③、またはリモコンの INPUT SELECT ボタン [1] で再生する入力ソースを選択します。

4 SPEAKER SYSTEMS 端子に接続しているスピーカーをお使いになる場合は、本体の SPEAKERS ボタン ⑩ を押して ON にしてください。

5 スーパーオーディオ CD プレーヤーにディスクを入れ、PLAY ボタンを押し再生します。

6 本体の VOLUME つまみ ④、またはリモコンの VOLUME ▲/▼ ボタン [6] で音量を調整します。

7 お好みにより本体のトーンコントロールつまみ ⑤ を回して低音 / 高音を調整してください。この時本体の TONE ボタン ⑨ またはリモコンの TONE ボタン [4] で TONE を ON に設定してください。

8 お部屋の雰囲気に合わせてディスプレイとイルミネーションランプを点灯 / 消灯することができます。本体の DISPLAY ボタン ⑧ またはリモコンの DISPLAY ボタン [7] を押してください。

■ アナログレコードプレーヤーによるレコード再生

1 本機の POWER ON/OFF① スイッチを押して電源を投入します。電源を投入し約 8 秒後にミューティングが解除し音が出る状態になります。複数台を F.C.B.S. 接続して連動動作させる場合は、ID 番号の若い機器から順番に電源を投入してください。

2 本体の INPUT SELECTOR つまみ ③、またはリモコンの INPUT SELECT ボタン [1] で PHONO を選択します。不意のアクシデントを防ぐため VOLUME つまみ ④ を回して音量を −∞ (最小) にしておくことをお勧めします。

3 お使いになるカートリッジに合わせて本体の PHONO MC ボタン ⑬ で MM か MC に設定してください。

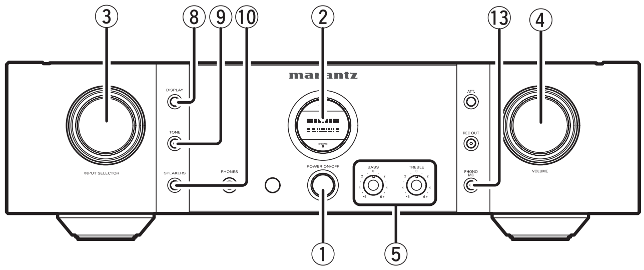
4 SPEAKER SYSTEMS 端子に接続しているスピーカーをお使いになる場合は、本体の SPEAKERS ボタン ⑩ を押して ON にしてください。

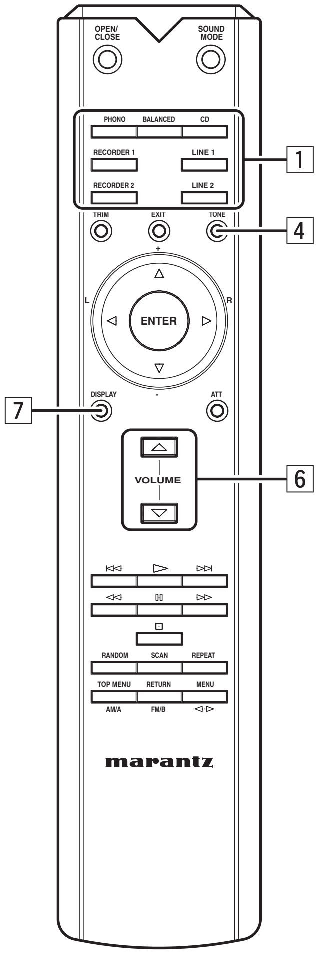
5 アナログレコードプレーヤーにレコードをセットしてレコードを再生します。

6 本体の VOLUME つまみ ④、またはリモコンの VOLUME ▲/▼ ボタン [6] で音量を調整します。

7 お好みにより本体のトーンコントロールつまみ ⑤ を回して低音 / 高音を調整してください。この時本体の TONE ボタン ⑨ またはリモコンの TONE ボタン [4] で TONE を ON に設定してください。

8 お部屋の雰囲気に合わせてディスプレイとイルミネーションランプを点灯 / 消灯することができます。本体の DISPLAY ボタン ⑧ またはリモコンの DISPLAY ボタン [7] を押してください。





録音のしかた

スーパーオーディオ CD プレーヤーなどの入力ソースを CD-R などの録音機器に録音する手順を説明します。

1 スーパーオーディオ CD プレーヤーと CD-R など録音機器の POWER ON/OFF スイッチを押して電源を投入します。

2 続いて本機の POWER ON/OFF スイッチ ① を押して電源を投入します。電源を投入し約 8 秒後にミューティングが解除し音が出る状態になります。複数台を F.C.B.S. 接続して連動動作させる場合は、ID 番号の若い機器から順番に電源を投入してください。

3 本体の INPUT SELECTOR つまみ ③、またはリモコンの INPUT SELECT ボタン 1 で再生する入力ソースを選択します。また、本体の REC OUT ボタン ⑫ を押して RECORDER 1 と RECORDER 2 の録音出力を ON にします。

4 スーパーオーディオ CD プレーヤーに再生するディスクを入れます。CD-R などの録音機器に録音するディスクを入れます。

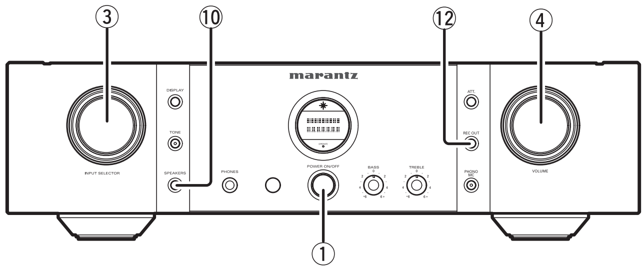
5 スーパーオーディオ CD プレーヤーを操作して再生します。続いて、CD-R などの録音機器を操作して録音します。

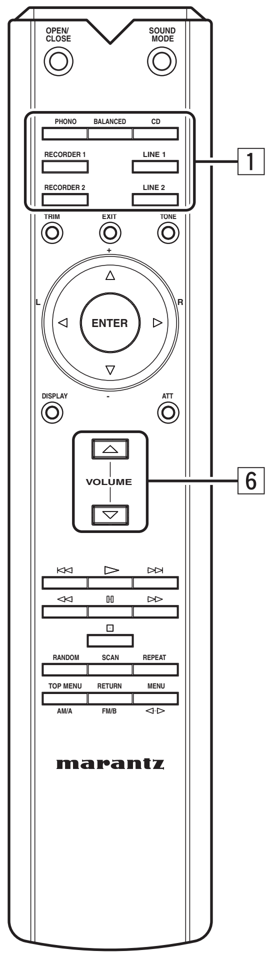
6 SPEAKER SYSTEMS 端子に接続しているスピーカーをお使いになる場合は、本体の SPEAKERS ボタン ⑩ を押して ON にしてください。

7 本体の VOLUME つまみ ④、またはリモコンの VOLUME▲/▼ ボタン 6 で音量を調整します。

注意

入力ソースに RECORDER 1 が選択されている場合は RECORDER 1 の OUT（録音出力）端子に信号は出力されません。また、RECORDER 2 が選択されている場合は RECORDER 2 の OUT（録音出力）端子に信号は出力されません。





機能の使い方と設定のしかた

F.C.B.S. について

F.C.B.S.（フローティング･コントロール･バス･システム）は最大 4 台までを専用のバスラインで結び、双方向データ通信により連動動作する通信システムです。

F.C.B.S. 接続は市販されている下記２種類のポータブルオーディオ用接続コードを使用することができます。接続する台数分だけ接続コードを用意してください。

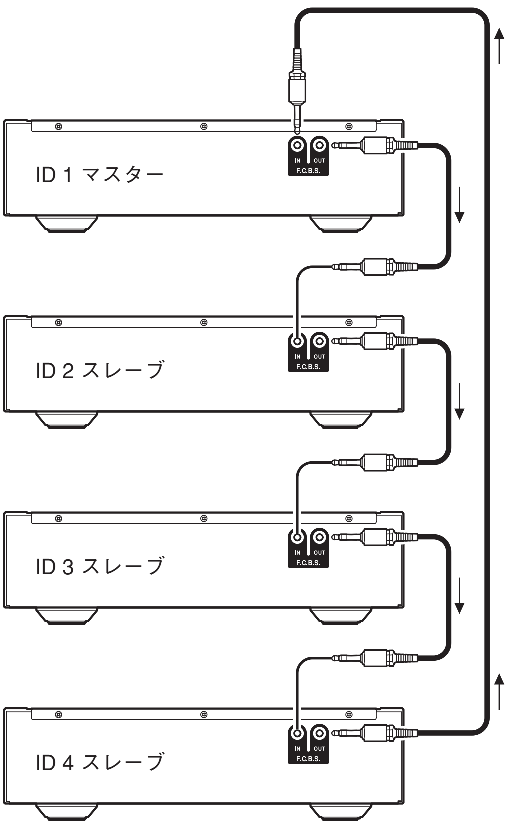
● モノラルミニプラグ⇔モノラルミニプラグの接続コード
● ステレオミニプラグ⇔ステレオミニプラグの接続コード

抵抗入りの接続コードも市販されていますが、抵抗入りの接続コードは使用できませんのでご注意ください。

下図は 4 台を F.C.B.S. 接続した例です。1 番上の ID 番号 1 のアンプがマスターとなって ID 番号 2 ～ 4 のスレーブ機器 3 台全てをコントロールします。
マスターを操作するとスレーブは入力ソース、音量、ATT 機能、ディスプレイ、トーンコントロール ON/OFF の機能がマスターに連動します。

本機を 2 台使ったコンプリートバイアンプ、3 台使った 5.1ch マルチチャンネルなど多彩な用途で使用することができます。

F.C.B.S. 接続した複数台のアンプの電源を ON/OFF する場合は、ID 番号の小さいアンプから順に電源を ON し、ID 番号の大きいアンプから順に電源を OFF してください。



■ PM-11S1 との F.C.B.S. 接続

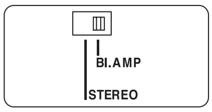
本機は上級機の PM-11S1 と F.C.B.S. 接続しマルチチャンネルシステムを構成することができます。
ただし、PM-11S1 は本機よりも上位機能を有していることから PM-11S1 と本機を組み合わせた F.C.B.S. 接続をする場合は下記の接続条件をお守りください。

● PM-11S1 は 1 台に限定し、接続する PM-13S1 または PM-15S1 は最大で 3 台までとする。
● PM-11S1 は ID　1 のマスターに限定し、PM-13S1 または PM-15S1 は ID 2 から ID 4 のスレーブに限定する。

接続例は 10 ページの**接続例 2** を参照してください。接続例 2 のフロント L/R チャンネル用の PM-13S1 または PM-15S1 を PM-11S1 に変更することで、フロントチャンネルの音質向上が期待できます（PM-11S1 の取扱説明書も合わせて参照してください）。
また、接続例 2 は 5.1ch マルチチャンネルシステムになっていますが、2ch ステレオで使用したい場合は ID 2 と ID 3 のアンプの電源を OFF すると PM-11S1 単独で使用することもできます。

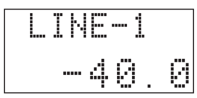
BI.AMP モードについて

2 台のアンプを使用して、コンプリートバイアンプ接続をするための BI.AMP(バイアンプ) モードを搭載しています。
コンプリートバイアンプはマランツが提案した音質を向上させる上級テクニックです。バイアンプ対応のスピーカーシステムをプリアンプ部から分離し高音 / 低音それぞれのスピーカーユニットをドライブするものです (接続例 3 も合わせて参照してください)。

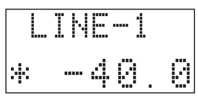


リアルパネルのモードスイッチを BI.AMP にするとバイアンプモードになります。
バイアンプモードは、L チャンネルに入力された信号がインプットセレクター部で振り分けられ左右のボリュームアンプに伝送されます。その後、左右のボルテージアンプ、左右のパワーバッファーへとそれぞれ順に伝送されスピーカー出力端子に出力されます。
下図はステレオモードとバイアンプモードの表示例です。

ステレオモード



バイアンプモード



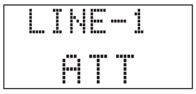
注意

- **バイアンプモード時は R チャンネルの入力端子は使用できません。**
- **MODE スイッチは必ず電源を OFF した状態で切換えてください。電源を再投入することで設定が有効になります。**

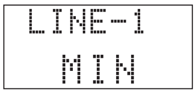
ATT.（アッテネーター）機能

ATT. はワンタッチで音量を絞る機能です。
本体またはリモコンの ATT. ボタンを押すと、音量が減衰します。工場出荷時の減衰量は－ 20dB に設定されていますが－ 20dB、－ 40dB、－∞のいずれかを設定することができます。

1 本体またはリモコンの ATT. ボタンを押すと、ATT の文字が点滅する表示に変わり、音量が小さくなります。
もう一度 ATT. ボタンを押すかボリュームをアップダウンするとアッテネーターが解除し元の音量に戻ります。



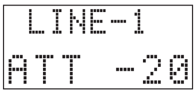
2 ボリュームが－∞（最小）になっている時に ATT. ボタンを押すと約 3 秒間下の図のように表示が変わりアッテネーターは動作しません。



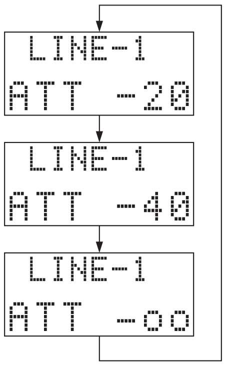
■ 減衰量の設定のしかた

減衰量の設定は本体でのみ可能です。

1 本体の ATT. ボタンを 2 秒以上押します。
ディスプレイは減衰量表示に変わります。



2 本体の ATT. ボタンを押す度に減衰量の設定値が変わります。



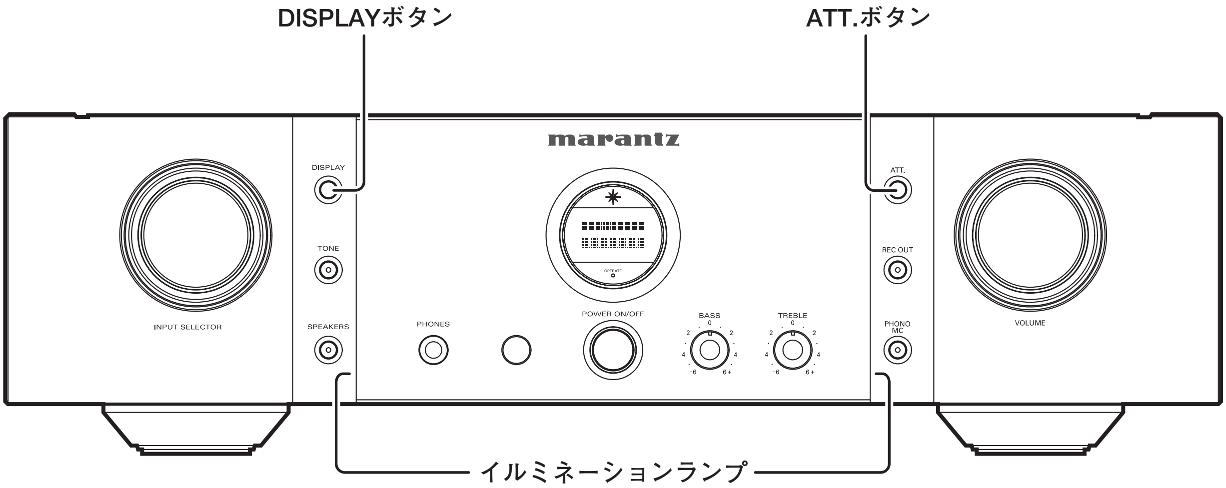
3 希望する減衰量表示の状態で約 2 秒間操作がなければ減衰量が確定します。確定するとディスプレイは音量表示に戻ります。

イルミネーションランプの設定のしかた

イルミネーションランプは連動点灯モード（工場出荷時設定）と常時消灯モードを選択することができます。
連動点灯モード時はディスプレイに連動して点灯／消灯します。

1 イルミネーションランプが点灯している状態で DISPLAY ボタンを 3 秒以上押すとイルミネーションランプは消え、常時消灯モードに設定されます。

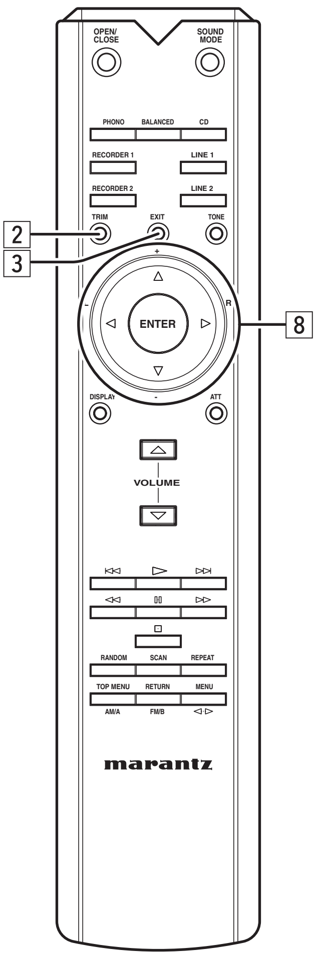
2 常時消灯モードを解除してイルミネーションランプを点灯させるには、もう一度 DISPLAY ボタンを 3 秒以上押します。



LEVEL TRIM(レベルトリム)調整のしかた

レベルトリム調整とは左右の音量バランスを調整する機能です。
レベルトリム調整はリモコンで操作します。

TRIM ボタン ：トリム調整の開始およびトリム調整するアンプを選択します。複数台を連動して使用している場合は、ID 番号の小さいアンプの順にトリム調整を行います。
EXIT ボタン ：トリム調整の終了
▲ ：トリムレベルを上げるカーソルボタン
▼ ：トリムレベルを下げるカーソルボタン
▶ ：R チャンネル選択するカーソルボタン
◀ ：L チャンネル選択するカーソルボタン
ENTER ：使用しません。



左右の音量を 0.5dB ステップで 0.0dB から− 9.0dB の範囲で調整することができます。工場出荷時は 0.0dB(最大) に設定されています。

1 TRIM ボタンを 1 回押すとレベルトリムモードになります。

L LEVEL R
0.0 0.0

2 点滅している左側の “0.0” は L チャンネルのレベルが調整できることを示しています。▲ または ▼ のカーソルボタンで L チャンネルのレベルを設定します。

L LEVEL R
-6.0 0.0

3 ▶ を押すと右側の “0.0” が点滅します。点滅している右側の “0.0” は R チャンネルのレベルが調整できることを示しています。▲ または ▼ のカーソルボタンで R チャンネルのレベルを設定します。

L LEVEL R
-6.0 -6.0

4 引き続き ID“2”(スレーブ) のレベルを調整する場合はもう一度 TRIM ボタンを押して上記の 1 〜 3 の手順でレベルを設定してください。もう一度 TRIM ボタンを押すと同様に ID“3” の調整ができます。

5 レベル調整を終了する場合は EXIT ボタンを押してください。

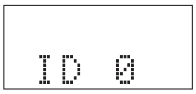
ID 番号の設定のしかた

本機をステレオアンプとして 1 台で単独使用する場合は ID 番号を “0” に設定してください（工場出荷時は “0” に設定されています）。

注意

ID 番号が “0” 以外では単独動作できません。

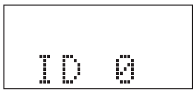
ID 番号は電源投入するとディスプレイに約 3 秒間表示されます。



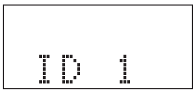
複数台接続して連動動作させる場合は、それぞれのアンプを識別するために ID 番号を設定します。
複数台を集中コントロールするアンプの ID を “1” に設定します。ID “1” に設定したアンプを「マスター」と呼びます。
「マスター」に連動して動作するアンプを「スレーブ」と呼び、ID 番号が重複しないように “2” 〜 “4” の ID 番号を設定します。

次の手順で ID 番号を設定してください。

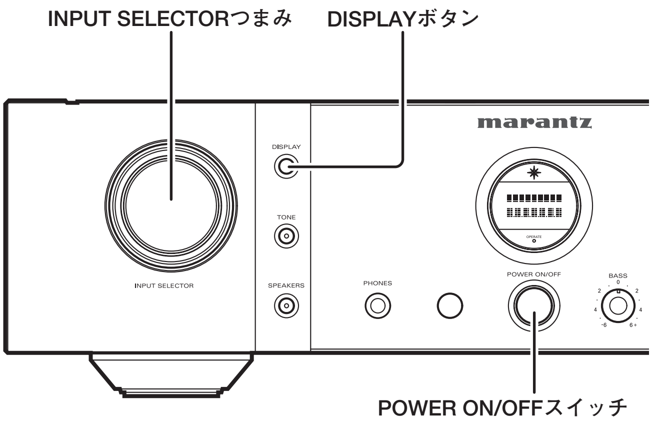
1 DISPLAY ボタンを押しながら POWER ON/OFF スイッチを押します。



2 INPUT SELECTOR つまみを回して ID 番号を選択します。

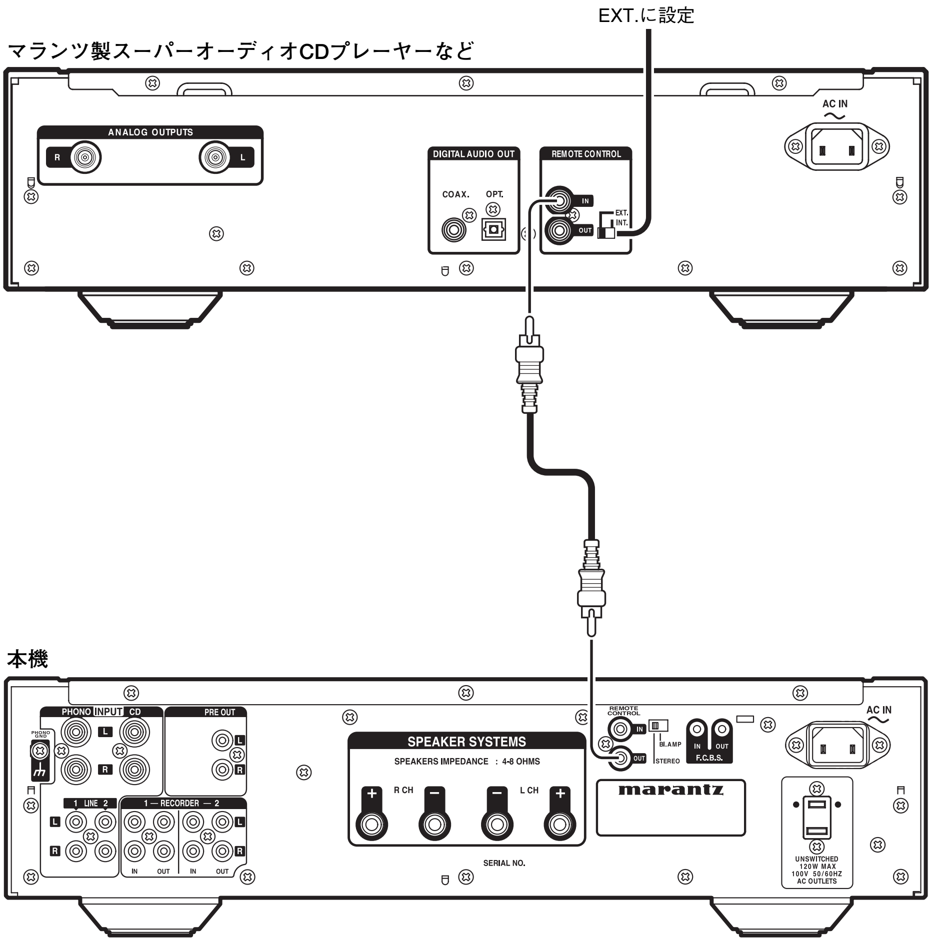


設定が終了したら電源を OFF してください。電源を再投入すると設定が有効になり、この設定は記憶されます。



リモートコントロール端子

リモートコントロール端子はマランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD プレーヤーなどリモートコントロール (D.BUS) 端子を持つ機器と接続する端子で、本機に付属しているリモコンを使ってシステムコントロールする時に使用する端子です。本機にはマランツ製スーパーオーディオ CD プレーヤーや DVD プレーヤーの基本機能を操作することができるシステムリモコンを付属しています。このリモコンを使って本機とプレーヤーをシステムコントロールする方法を簡単に説明します。
下図のようにプレーヤーのリモートコントロール “IN” 端子と本機のリモートコントロール “OUT” 端子を接続し、プレーヤーのスイッチを EXT. に設定してください。
16, 17, 18, 19 ページを参照し本機の受光窓に向けて送信すると、本機とプレーヤーの両方を操作することができます。



故障とお考えになる前に

故障かな？と感じたらちょっとチェックしてください。
意外な操作ミスで故障と思われていることがあります。
下記の項目をチェックしても直らない場合は、お買い上げになった販売店、お近くの株式会社マランツコンシューマーマーケティング各営業所、お客様相談センター、または当社サービスセンターにご相談ください。

★ 電源が入らない

1. 電源コードが確実に電源コンセントに差し込まれていますか？

★ スピーカーから音が出ない

1. 前面の SPEAKER ボタンが OFF になっていませんか？
2. ATT.(アッテネーター) が動作していませんか？
3. 前面の INPUT SELECTOR で選択した入力ソースが間違っていませんか？
4. プレーヤー (再生機器) などの使用方法を間違っていませんか？
5. 接続コードやスピーカーコードが確実に接続されていますか？
6. 保護回路が動作し自動的に音量を絞った可能性があります。もう一度音量を調整してください。
7. エラーメッセージが表示されている場合は、表を参照して ID 番号を正しく設定してください。

★ 左右の音量が異なる

左右の音量調整 (LEVEL TRIM) の設定値が左右で異なっていませんか？
必要の応じてもう一度トリム調整をしてください。

★ スピーカーからの音がステレオにならない

後面の MODE スイッチが “BI.AMP” に設定されている可能性があります。BI.AMP モードの時は、いったん電源を切り MODE スイッチを “STEREO” に設定して電源を再投入してください。MODE スイッチは設定後電源を再投入しなければ正しく設定されません。

★ レコードプレーヤーの音が出ない、または雑音が大きい

1. お使いになるカートリッジに合わせて前面の PHONO MC ボタンが正しく設定されていますか？
2. 接続コードが正しく接続されていますか？
3. レコードプレーヤーからのアース線を PHONO GND 端子に接続してください。
4. カートリッジがトーンアームに正しく接続されていますか？

■ 保護回路について

本機にはアンプ回路およびスピーカーシステムを破損から保護する「保護回路」を搭載しています。
保護回路が動作すると直ぐにミューティング機能が働きます。この時ディスプレイパネルに “PROTECT” の文字が点滅します。

● 電源投入時

電源投入時アンプ回路が安定するまでの約 8 秒間、保護回路が働きミューティング状態になります。その後、アンプ回路が安定すると保護回路を解除し音が出る状態になります。

● 過大な電流が流れた時

過大な信号が入力されアンプ回路に過大な電流が流れた時やインピーダンスが 4 Ω未満のスピーカーシステムを接続して使用した時など、設定以上の過電流を検出した場合に保護回路が働きます。誤ってスピーカーコードをショートした時にも保護回路が働きます。
この時ディスプレイには “PROTECT” と点滅表示し約 8 秒後、自動的にボリュームを最小に絞り保護回路は解除しますので音量を再調整してください。

● 過大な超低域の信号が入力された時

設定以上の過大な超低域信号が入力された場合も保護回路が働きます。この時ディスプレイには “PROTECT” と点滅表示し約 8 秒後、自動的にボリュームを最小に絞り保護回路は解除しますので音量を再調整してください。

● パワーアンプが加熱した時

過大な信号を入力された状態で連続使用した場合などメインアンプ部の温度が設定以上の温度になると保護回路が働きます。また、天面の通風孔を塞いで使用した場合や狭いラックに入れて使用した場合にも設定以上の温度になると保護回路が働きます。この時ディスプレイには “PROTECT” と点滅表示し、温度が下がると自動的にボリュームを最小に絞って保護回路を解除しますので再度調整してください。

■ エラーメッセージについて

本機を複数台使用して F.C.B.S. 連動動作をした場合、ディスプレイに下表のようなエラーメッセージが表示されることがあります。このような場合は ID 番号の設定やリモートケーブルの接続に問題がありますので、下表を参考にして ID 番号やリモートケーブルの接続を確認してください。ID 番号の設定は **ID 番号の設定のしかた** (23 ページ) を参照してください。

	表示	意味	対策
1	ERROR 02	ID 番号 2 のアンプが重複しています。	ID 番号が重複しないように ID 番号を設定してください。
2	ERROR 03	ID 番号 3 のアンプが重複しています。	
3	ERROR 04	ID 番号 4 のアンプが重複しています。	
4	ERROR 11	ID 番号 2 ～ 4 のアンプが ID 番号 1 のアンプと通信できません。	ID 番号 1 のアンプに電源が入っていない場合は電源を入れてください。 リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。
5	ERROR 12	ID 番号 1 のアンプが ID 番号 2 ～ 4 のアンプと通信できません。	ID 番号 1 のアンプが重複している場合は ID 番号を正しく設定してください。 リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。

仕様

定格出力（20Hz〜20kHz両ch同時駆動）
....90W ×2（8Ω負荷）
.... 140W ×2（4Ω負荷）

全高調波歪率（20Hz〜20kHz両ch同時駆動、8Ω負荷）
....0.05%

出力帯域幅（8Ω負荷、0.05%）............................5Hz〜40kHz

周波数特性（CD、1W、8Ω負荷）.......................5Hz〜100kHz

ダンピングファクター（8Ω負荷、20Hz〜20kHz）.........100

入力感度/入力インピーダンス
PHONO（MC）..300μV/100Ω
PHONO（MM）... 3.2mV/47kΩ
CD/LINE/RECORDER.................................240mV/20kΩ

出力電圧/出力インピーダンス
PRE OUT 1.7V/330Ω

PHONO最大許容入力（1kHz）
MC 15mV
MM 150mV

RIAA偏差（20Hz〜20kHz）..±0.5dB

S/N比（IHF Aネットワーク、1W出力、8Ω負荷）（EIAJ）
PHONO（MC）.....................................77dB（0.5mV入力）
PHONO（MM）..85dB（5mV入力）
CD/LINE/RECORDER..................... 90dB（500mV入力）

トーンコントロール
BASS（50Hz）...±10dB
TREBLE（20kHz）...±10dB

電源電圧...AC100V、50/60Hz

消費電力
（J60065）...220W
（4Ω、140W ×2出力時）...550W

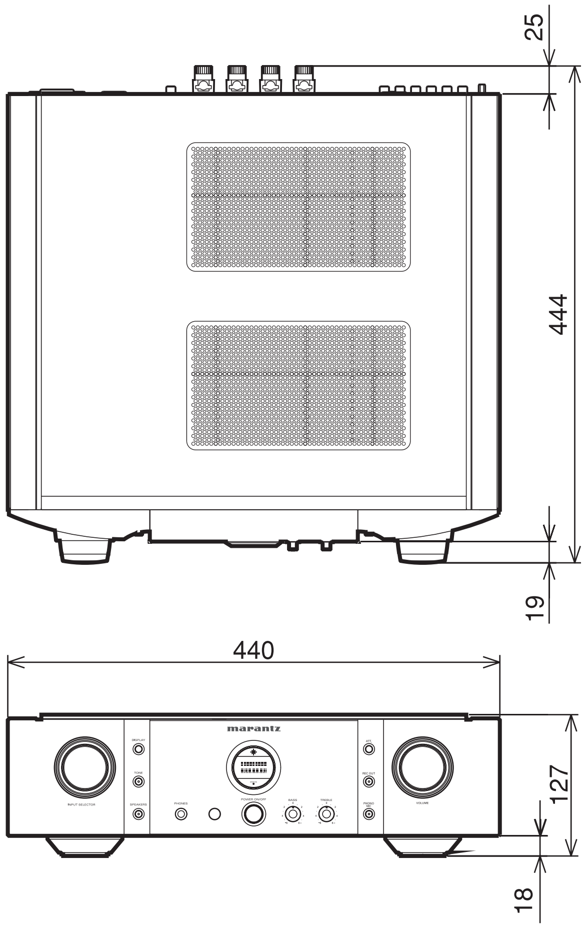
付属品
リモコン 1
単4乾電池..2
電源コード 1

最大外形寸法（本体）
幅 440mm
高さ
.... 127mm（PM-13S1）
.... 123mm（PM-15S1）
奥行き... 444mm

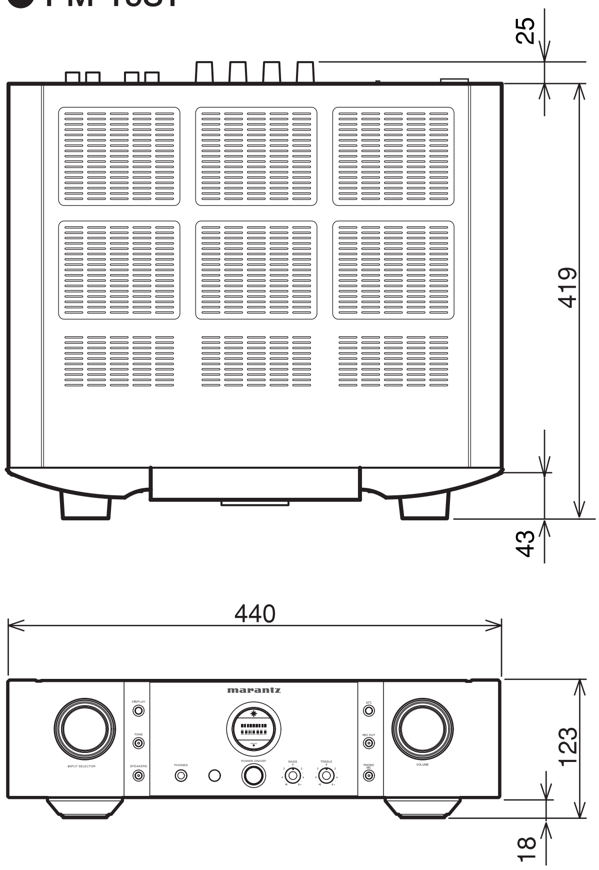
質量（本体）
....20.0kg（PM-13S1）
.... 18.0kg（PM-15S1）

外観寸法図

● PM-13S1



● PM-15S1



その他

■ お手入れ

- セットが汚れた時は柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどい時は食器用洗剤を 5 〜 6 倍にうすめ、やわらかい布に浸し、固く絞って汚れをふきとったあと、乾いた布でからぶきしてください。
- アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤など揮発性のものが付着すると塗装がはげたり、光沢が失われることがありますから絶対にご使用にならないでください。また、化学ぞうきんでこすったり、長時間接触させたままにしておきますと変質したり、塗料がはげたりすることがありますのでご注意ください。

■ ステレオ 音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮（思いやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽観賞には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

■ 保証・アフターサービスについて

1. この商品には保証書を別途添付してあります。
   保証書は「販売店印・保証期間」をご確認の上、販売店からお受け取りいただき、よくお読みの上、大切に保存してください。
2. 本体の保証期間はお買い上げ日より 1 年間です。
   お買い上げ販売店又は当社サービスセンターで保証記載事項に基づき「無料修理」致します。
3. 保証期間経過後の修理。
   修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
4. 当社はこの製品の補修用性能部品を製造打切後最低 8 年間保有しています。
5. 補修用部品の詳細・ご贈答・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買い上げ販売店または当社サービスセンターに遠慮なくご相談ください。
6. 修理を依頼される際には、お手数ですがもう一度 “ 故障とお考えになる前に ” をご参照の上よくお調べください。それでも直らない時は、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げ販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容

1）	品名	**インテグレーテッドアンプ**
2）	品番	**PM-13S1 または PM-15S1**
3）	お買い上げ日	年　月　日
4）	故障の状況	（できるだけ具体的に）
5）	ご住所	
6）	お名前	
7）	電話番号	

その他

marantz®

お客様ご相談センター

☎ (03) 3719-3481

ご相談受付時間

9：30－12：00　13：00－17：00

（土　日　祝日　当社休日を除く）

修理に関しましては 添付の「 **製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内** 」をご覧ください。

株式会社マランツコンシューマー マーケティング

当社の最新情報をインターネット上でご覧下さい。

http://www.marantz.jp

Printed in Japan

02/2007　00M21AJ851110　mzh-g